

静岡県の両生類

佐々木彰央



静岡県に生息する20種の両生類。左向きが在来種、右向きが外来種

- a. ウシガエル, b. カジカガエル, c. ネバタゴガエル, d. ヒダサンショウウオ, e. ハコネサンショウウオ, f. アフリカツメガエ, g. タゴガエル, h. シュレーゲルアオガエル, i. ニホンアカガエル, j. ニホンアマガエル, k. アカハライモリ, l. ナガレタゴガエル, m. モリアオガエル, n. アズマヒキガエル, o. ヤマアカガエル, p. ヌマガエル, q. ツチガエル, r. トノサマガエル, s. ナゴヤダルマガエル, t. アカイシサンショウウオ

2017年8月5、6日に東海地域では初の両生類自然史フォーラムをミュージアムで開催、それに併せて「静岡県の両生類展」も展示することになりました。

目的は静岡県に生息する両生類全種を紹介するというもので、本号の高田さんの記事でも紹介されていますが、特定外来種のウシガエルを除き、生きた状態での展示にこだわりました。ただ、県内に生息する全種の両生類を生かしておくというのは大変なことで、種や個体によって餌の好み異なります。また、警戒心が強い個体は少しの音や振動で餌を食べなくなるので気を使いました。さらに、ほとんどの両生類が乾燥と気温の上昇に弱いため、水の量をチェックすると共にエアコンは常に稼働させていました。これら全てを自宅で行っていたので、家の中は屋内なのに冷涼で湿潤、さらにカエルの合唱が鳴り響く野外のような状況でした。さて、ここでは展示のはじまる3ヶ月前からの両生類採集奮闘記を紹介します。

県内の両生類は上の写真に掲載している20種が知られています。これらは種によって生息する地域や環境が異なります。それによって採集にもひと工夫が必要になります。ただし、アカハライモリや低地に棲むカエル類は県内の水田や池で大半の種を見ることが出来ます。また、雨の降る6月の夜間であれば道路上に沢山のカエル類が出てきます。一方でサンショウウオ類の成体や絶滅が危惧されるナゴヤダルマガエルはを見つけるのに苦労しました。これら全ての種について詳しく話をしたいところではありますが、ここではまとめきれないので、本採集で面白いと思った両生類との遭遇事例を紹介します。

5月に南伊豆町手石を訪れた際、戦時中に特攻用の潜水艦を収納していたと言われるトンネルでアズマヒキガエルを確認しました。入り口付近は海水で満たされ、奥は行き止まり、水面には発泡スチロールやブイ、木材などのゴミが大量に浮いていました。そして、最も奥の砂地に体長16cmのアズマヒキガエルがどっしりとかまえていました。海岸付近での目撃は三保半島などで度々あるため、それほど珍しいとも思っていませんでしたが、海水が入り込むトンネル内で遭遇したことには驚きました。さらに、逃げる際には海水に浸かり、平然と泳いでいました。それでも捕まえると、いつまで出続けるんだ・・・と思うほどの尿を大量に浴びせられましたが、めげずに連れて帰りました。マングローブで暮らすカニクイガエルの仲間を除く、多くの両生類は淡水域を主な生活圏としていますが、海水域のみの場所で両生類と遭遇したのは幸運だったと思います。その後、このアズマヒキガエルは両生類展にて、多くの来館者の注目を浴びていました。現在は標本として大切に保管してあります。

最後になりましたが、採集に協力をいただいた友人には心からお礼申し上げます。